

千年の森便り No.178

2018.05. 18

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

5月13日 日曜日 曇後雨

5月の千年の森活動は公開行事「初夏の豊英島と清和県民の森を楽しむハイキング」でした。豊英島には行ってみたいけど不便な場所なので二の足を踏んでいるとの声をよく聞きます。この要望に応じて千葉の自然に親しむ会が公開行事に合わせて貸し切りバスを仕立て、団体に訪れることになりました。また、私が佐倉の里山で観察会を開いている畔田谷津の生命を見守る会も共同で参加を募ったところ好評で、当初借りる予定のバスでは座席不足となり、車種変更で対応するほどの人気でした。当日のドタキャンも出ず33名の満席でした。私もこのバスに同乗し、資料として配布した千年の森パンフレットに沿って清和県民の森の自然、千年の森活動などを説明しました。この種の資料は受け取っても後で読もうとしているうちに忘れて無駄になるケースが多いのですが、今回は有効でした。

県民の森駐車場からの林道ハイキングは例年通り新緑が鮮やかで、花や樹木、地層など珍しいものが多い上、元より自然大好きな集団ですから何かに興味を持つとその場に根が生えたように動かなくなる習性があります。長い列の最後尾で追いたての憎まれ役をお願いした松田さん、動植物の解説をしてくれた皆さん、伴走車でお手伝い下さった会員の皆さん、お疲れ様、ありがとうございました。

島に到着した頃に小雨が降り出したので、急いで竹小屋にシートを張りましたが、本降りにならず、手際良い屋根掛けのデモンストレーションを見せただけの結果になりました。

島内散策は真鍋、細谷チーム、福島、秋元チーム、栗山、田島チームの3班に分かれてそれぞれ案内してもらいましたが、各チームとも盛り上がっていました。

帰路のバスでは千葉の自然に親しむ会の恒例で、マイクを回して全員が一言ずつ感想を述べていました。主な内容は以下の通りです。

・この様な機会を作ってくれた千年の森活動ともてなしてくれた会員に感謝する。一緒にやりたいが遠くて通いきれず残念。・モウセンゴケとコケリンドウ群落に感動。・山中に島があるのは不思議だったが、川廻しと崩落の結果と聞いて納得できた。トビの巣があったのにびっくり。・今度はツチアケビの花が咲いているところを見たい。・生きたヤマビルを初めて見た。動画も撮れた。・禁断岬はスリル満点 無事に帰れて良かった等々でした。(坂本)

参加会員は秋元、鶴沢、久我夫妻、栗山、坂本、田島、成沢、福島、細谷、松田、真鍋の12名、「千葉の自然に親しむ会」から盛一様、太田様など24名、「畔田の会」から橋本様など8名、四街道の市原、山口様、そして遠路東京から参加の梅田様、総勢47名の大盛況でした。





ジャケツイバラ(松田)



ヤマボウシ(栗山)



ヤマツツジ(秋元)

「ちば千年の森をつくる会ハイキングに参加して」

東京都杉並区 梅田正太

以前から千葉県の新植に興味をもっておりましたが、適切な機会がなく足を踏み入れること
かなわなかったところ、HPにて本企画を知り
参加しました。当日はチャーターバスで参加さ
れる方々もおられ、総勢 40 名以上でリーダー
の坂本様のガイドが聞き取れるかちょっと心配
でしたが、植物に非常に詳しい方が何人もおら
れるとのことで一安心。まずは清和県民の森の林道をずっと歩いていきます。



サルナシ(梅田)



自生のシラン(梅田)

早速黄色いジャケツイバラやオオバウマノスズクサなどめずらしい花がどんど
んでてきます。ふと上を見上げるとサルナシの花（両性花らしい）、脇にはハ
ンショウヅル、下にはラン科の葉、と眼が忙しい。さらに進むと里山風景がひ
ろがりります。ここで田んぼの土手をみると一面に小さなコケリンドウが、そし
てモウセンゴケが群生しているのにもびっくり（高山植物と思ってました）。
さらにその上にはシランも。自生のシランなんてあるとは思っていませんで
した。ここまででも十分堪能したのですが、後半はいよいよ豊英島へ。ここが
アプローチの仕方からして『秘密基地』のようでさらに期待が高まります。そ
してそこには、．．．数多くのオオバノトンボソウ、ツチアケビ、トサノクロ
ムヨウラン等など図鑑でしか見たことのない貴重な植物の宝庫、開花した姿を
是非見てみたいと思いました。昼食後には、島内を散策。トンビの巣を間近に
眺めたり、「禁断の岬」へヒメコマツを訪ねて冒険（なるほど「禁断」、険し
い!）と豊かな自然と触れ合う体験もさせていただきました。ここは『秘密基
地』というより『秘密の花園』+『宝島』だと一人合点。道中、ノイバラの見分け方やウグイスカグラの見分け
方なども教えていただき、植物への興味が本日一日でさらに増しました。会の皆さま、参加者の皆さま、楽し
い、貴重な一日をありがとうございました。



オオバノトンボソウ(梅田)



モウセンゴケ(秋元)



コケリンドウ(真鍋)



ハンショウヅル(秋元)

「南房総の自然と植生」

千葉の自然に親しむ会 太田慶子

お天気が心配されたけれど、帰りのバスに乗る直前に雨が降り始めるというラッキーさ。行きのバスの車窓から見えたのは、田植えが終わった水田に、濃くなり始めた緑の中のヤマボウシの白い花。県民の森に近づくとサルが電線の上を伝っていた。

北総から来ると、南房総は植生が違うので、普段見ない植物が見られるという期待のもと、久しぶりの清和県民の森の集合場所に着いた。目の前にアワブキが蕾をつけていて、フサザクラは実を垂らしている。ああ、ここは南房総だ、と。虫にも目が行くが、やはり、普段見られない草や木の、花があればいいが、なくても葉があれば、これは何々、これは何々と気持ちが次々に惹かれて行き、足が進まない。

ふしぎに思ったのは、千葉ではもう咲いているウツギがまだ蕾で、よく似たマルバウツギが見頃。コゴメウツギは咲き出したばかりで、ハンショウツルも花真っ盛り・・・と、南なのに千葉市内より花が遅いこと。

カジカガエルの声が川から聞こえてきた。いいなあ・・・。

黒いアゲハが舞う。ジャコウクロアゲハ・・・モンキアゲハもいた。ここには、アカボシゴマダラはまだ来ていないようだ。

ドクウツギは赤い実になり、オオバウマノスズクサの花は咲いて、葉裏にはジャコウアゲハの幼虫がいた。サルナシの花も珍しく、林縁には花が見たいツル lindoウや lindoウの葉、センボンヤリやヒメハギの咲いたあと・・・。

バスで参加者の感想をきいた時、崖の水が滴るところに咲いたコケ lindoウと虫を捕まえたモウセンゴケに惹かれたという声が多かった。その上には野生のシランの花も咲いていた。坂本さんの話によると、地元の方が農薬を使わずに丁寧に草刈りをして下さっているから残るのだろうと。東金の知り合いのところにも何カ所かモウセンゴケがあったが、なくなったと聞いてから久しい。

昼食は吊り橋を渡って豊英島の千年広場で。雨がパラパラし出すと、テーブル上に覆いが掛けられたが（感謝）、幸いにも止んでくれて、午後の島内観察会は3班に分かれて、無事に終了。

シカの害に遭わないようにフェンスで囲まれた内と外では下草の量がまるで違った。初めてヤマビルを見たが、ゴムよりも引っ張りに強いのにびっくりした。千葉では珍しいオニシバリがたくさんあったが、これはシカが嫌うからだ。オオバノトンボソウにカンアオイの葉が当たり前のようにはいっぱいあった。

手入れのされていない雑木林の木々には横枝がない。光が射しこまないで、木が枝を落としてしまうからだ。私の関わっている園生の森も、時々大きい木を伐ってもらっても、そばにある木が空いた空間に伸びてきて地面を覆ってしまう。一度大規模な伐採を行わないとヤマユリの咲くような明るい森にはならないので、いつも木を伐ってくれ！と喚んでいる。豊英島も暗い。できれば、チェーンソーで部分的な皆伐を行って光を入れてみたらいいだろうなあと思う。光が入ることで、埋蔵種子が芽吹く可能性が大だから。もっとも、じめじめが好きな菌類は減るかもしれない。



マルバウツギ(栗山)



オオバウマノスズクサ(秋元)



オオバウマノスズクサ葉裏のジャコウアゲハの若齢幼虫(太田)

と最後に勝手なことを書きましたが、いろいろ準備をして案内して下さったボランティアの方々、ご苦労様、ありがとうございました。



「自然と人間が調和している姿」

畔田の会 橋本るり子

ちば千年の森は自然と人間が共存している姿を感じ、わたしは自然の中に美しい心を学び、自然の尊さを知りました。

また、先生方には昆虫の生態や野草の名前などの説明を受けさらに興味が湧き、新しい自分を見つけることが出来すばらしい一日となりました。スケッチをする私には、自然と人間が調和している姿を絵に残したい風景でもありました。

○昆虫観察記



イチモンジチョウ



ルリタテハの幼虫



タイリククロスジヘビトンボ



交尾中のラミーカミキリ



ヒメキマダラセセリ



モウセンゴケの罠に捕まったヨコバイ

今回の観察会は参加者が多く沢山の目があったお陰で、いろいろな虫を発見できました。橋の上で皆さんが写真を撮られていたのは、イチモンジチョウで食草はスイカズラです。サルトリイバラの葉を食べているルリタテハの幼虫のトゲトゲの迫力に、皆さん驚きの顔。大物のタイリククロスジヘビトンボは初めて見ましたが、シックな装いながら存在感がありました。カラムシを食べるラミーカミキリは交尾中、ヒメキマダラセセリはオスがメスにプロポーズ中、恋路の邪魔はしませんように。モウセンゴケの罠に捕まったヨコバイを発見。「巻いている葉に虫がいるのよ」と、さすがOさんの観察眼です。生き物の様々なドラマを皆さんと観察できたことに感謝します。（記事画像とも田島）

○豊英島ガイド-福島・秋元チーム

昼食のあと、秋元さんとともに島内散策のガイドをしました。コースはあまり起伏のない巨木林エリアです。植生保護柵を回りながら、豊英島における二ホンジカの食害と植生の保護についてお話しさせていただきました。林床植生の少なさと、保護柵内と柵外の植生の違いにみなさんびっくりされているようでした。中でも、特にみなさんが興味を持たれたのは、二ホンジカとの関係が深いヤマビルだったようです。ヤマビルの姿、動きに興味津々のようでした。散策の途中、オオスズメバチの来訪がありましたが、みなさん落ち着いて対処でき、とても素晴らしかったです。

ご参加いただいたみなさんは、自然や植物に詳しい方が多く、案内させていただいたこちらでも大変勉強になりました。(福島)

○豊英島ガイド-真鍋・細谷チーム

先ずヒメコマツ保護柵内で8年前植栽のヒメコマツと自生ツチアケビのモニタリング状況、マツが何故枯れる?との間には「わからない。」続いてギャップ更新地柵内外の植生密度の違いやトビの巣を覗き見して、通路脇のオオバノトンボソウやイチヤクソウなど見ながら最南端のホテイ岬へ、保護柵内の稀少種や、湖岸の植生を見て、急斜面のモミ・ツガ林を眺めながら祠山へ、そして尾根伝いに禁断の岬に辿り着き、自生の地形に近い急斜面のヒメコマツや稀少種が自生する崖下を覗き見して、集合時刻5分過ぎて大急ぎ広場に戻りました。

駆け足の強行軍ツアーで、自然や植生に関心の高い参加の方々には、落ち着いて観察できる時間が欲しかったと反省しています。未熟なツアーガイドをお許してください。(真鍋)

○真鍋さん先頭での案内、今日はとても張り切っていて坂を登ったり下ったりちょっとした登山気分。豊英島周辺の湖面は、2-3日前の雨で水量が多かった。イチヤクソウ、キッコウハグマ、ミヤマシキミの実……。成長したヒメコマツ、所々にツチアケビの蕾、開花が楽しみです。昼食には沢山の美味しいお惣菜の差し入れ、ご馳走様でした、いつもありがとうございます。(細谷)

○ツチアケビ

ツチアケビが芽を出していました。千年広場南(C地点)に4株、ヒメコマツ保護柵内(E地点)に3株、マダケ林(A地点)及び島入り口(B地点)は発芽ゼロ、巨木林柵内は調査していないので不明です。

千年広場南の4株中1株は金網の外に出ていたので、いったん金網を撤去し、観察・撮影終了後に4株とも金網で囲いました。

ホームページ掲載の「豊英島のツチアケビ」モニタリング記録は6月観察後に更新します。(真鍋)



ヒメコマツ柵内のツチアケビ3株(福島)



孵化後間もないトビの雛(栗山)

○トビの雛

4月に2個産卵されていたトビの巣に、孵化後間もない雛を見ました。産毛に覆われ、孵化直後のような姿で、1羽は確認できますが、もう1羽いるかどうかは確認できません、写真右上の頭のない魚は親鳥が運んできた餌と思われます。(真鍋)

お知らせ

○6月定例活動日 6月10日(日) 9時30分君津市清和自然休養村管理センター集合です。

シカ個体数調査 ヒメコマツ周辺下刈り、環境整備(水辺)、危険木処理などを予定しています。スズメバチ始め野生生物の活動も活発になってきています。服装、靴、ヘルメットなどに注意願います。

恒例の植物、野鳥、昆虫調査に加え、条件が整えばボートを使って島の外周を湖面から観察することも企画しています。又島外農地周辺土手の草刈りを行いますので、刈払機の有る人は持参をお願いします。

皆さんの参加をお待ちしています。